



私たちが
有機化学
研究室を
大好きな理由

- 1 「自主自律」の精神。学生の意思を尊重し、柔軟な発想で物事を考える力が身につきます。
- 2 仲が良く、メンバーの誕生日にはポップコーンでお祝いをしています。

北村教授から学生たちへのメッセージ

薬学部だから医療人、薬剤師ということではなく、可能性は無限大。常に自分の頭で考えて、外に広がろうとする「プロフェッショナル」を目指してほしいと思います。



誕生日恒例のポップコーンパーティー！
親睦を深めるイベントも学生主体で企画されている。

研究室での学びを「人生観」と捉えている。「研究は、これまでの人類の経験の外にあるものを見出すこと。よって、研究を通して自分たちの外にある新しい概念を見出すことを目標としています。」
これまでになかったものを生み出す研究は困難も多く、失敗することも少なくない。学生たちからは「そんなとき、先生は『この失敗が新たな発見につながるかもしれない』とポジティブな視点を示してくださいました」「研究を通して常に疑問を持ち、物事の理由を考えるようになりました」という声があがっている。考えることを諦めず、チャレンジを続ける有機化学研究室の学生たち。その積み重ねが、世の中の常識を変えられる新発見へとつながるかもしれない。

※写真撮影時のみマスクを外しています。

学びの現場にフォーカス！



MATSUYAMA UNIVERSITY LABORATORY

薬学部医療薬学科

座談会
学生メンバー
有機化学研究室

医薬品開発に役立つ反応の開発を目的に、新反応の発見に挑む有機化学研究室。有機化学の研究を通し、常識や固定概念の外を観る力、そして、より広い世界へと突き進む力を培う。

新薬の開発にも
関わる挑戦の学問

北村 正典 教授

私たち、有機化学研究室生です！
座談会
学生メンバー



後列左から時計まわりに、徳増あゆみさん、高野舞菜さん、細川勲正さん、岡本流星さん、兵頭諒さん、武市昂己さん(4年次生)

生体現象に応答して発光する分子の開発に臨んでいる。



実験研究+座談会「人生観」
学びを通して
「心の目」を養う

「有機化学」とは、炭素を含む有機化合物を研究対象とする化学の一分野だ。医薬品をはじめ工業製品、ペットボトル、ナイロン繊維など、身のまわりの様々なものに有機化合物が使われており、私たちの生活にとっても身近な学問といえる。有機化学研究室の今年度のテーマは大きく二つ。まず一つは、医薬品の合成に役立つ反応開発。多くの医薬

品に含まれているフッ素原子を、より効率的に導入する反応の開発に挑んでいる。もう一つは、生体現象を明らかにする発光性分子の開発。有機分子の集まりである生体内で何が起きているのか。シグナル伝達などの生体現象を可視化する、つまり私たちの「目」となる発光性分子の開発だ。

これらの研究において対象となる有機化合物の仕組みは、目に見えないもの。だからこそ、想像力や思考する力が重要だと北村正典教授は話す。「我々は、注意を向けなければ在る物が視界に入っていたとしても見えません。逆に、注視することによって、実際には目に見えない分子の様子が心の中に広がります。当研究室では、学びを通じて『心の目』を養うことを目標に、日々努力を重ねています」。そのためのファーストステップとして、配属された4年次生は、まず有機化学反応の練習実験を個々に行う。全員同じ内容の実験を行うが、その結果はほとんどが違うものになるという。そこで、皆で話し合い、その原因を探りて突き止めていく。「自分と仲間の経験を擦り合わせ、原因究明に達したときの一体感はこの上ないものです」と話す。

可能性を広げるのは自分
外を観て、そして外へ進め

有機化学の研究を通して視野が広がった自身の経験から、北村教授は研